

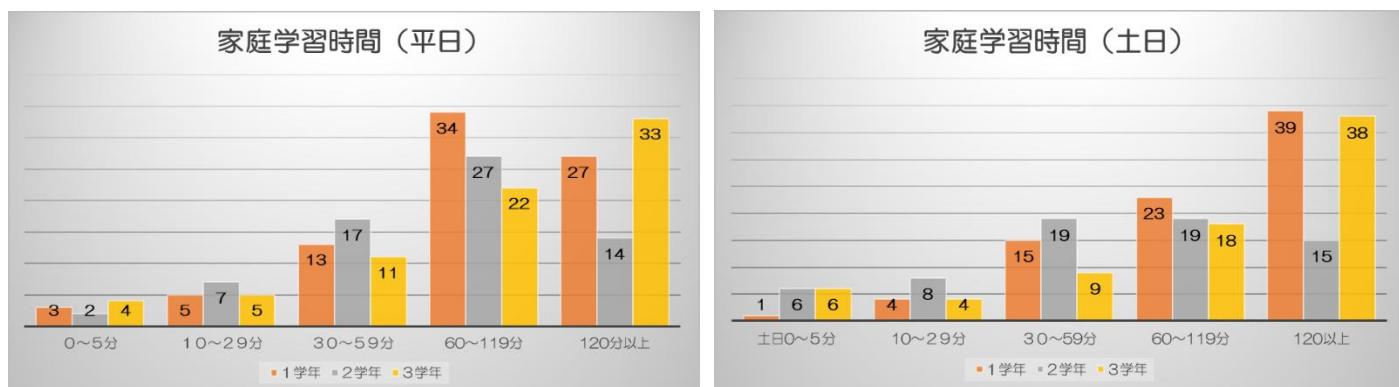
全校集計分析(1学期)から見えてきたこと

この度、生徒の皆さんを対象に実施した家庭学習に関する調査結果がまとめましたので、御報告させていただきます。今年度は全体として学習への前向きな変化が見られる一方で、学年ごとの課題や生活習慣との関係など、引き続き注視すべき点も明らかになりました。

1. 家庭学習時間について

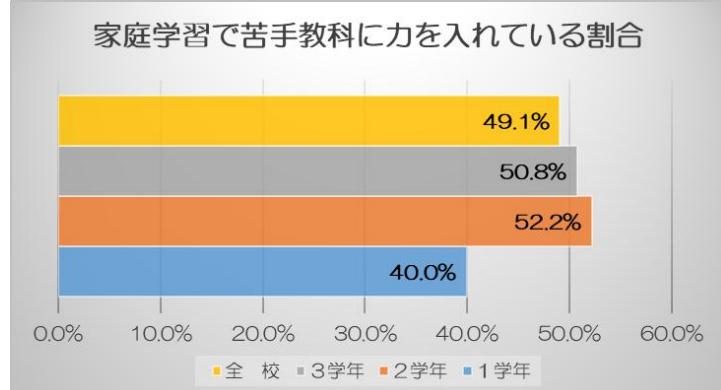
今年度の家庭学習時間は、全体平均で平日 84.7 分、土日 98.4 分と、昨年度から向上し、改善傾向が見られました。特に3学年(受験を見据えた姿勢の定着)や1学年(土日の大幅な増加)で顕著な伸びが見られます。

一方、2学年は平日 70.6 分、土日 67.4 分と横ばいで、依然として低水準にとどまっている状況です。また、平日・土日ともに 120 分以上学習に取り組む生徒が全体で 50.4% に達する一方で、10 分以下の層も 5.4% 存在しています。



2. 苦手克服への意識向上と支援の必要性

「苦手教科に力を入れて学習する」生徒は、昨年度の 37.7% から大きく改善し、今年度は全体で 49.1% となりました。特に 2・3 学年では半数を超える、「苦手を克服したい」という前向きな姿勢が強まっていることがうかがえます。ただし、国語・数学・英語といった主要教科に苦手意識が集中していることが、課題として挙げられます。



3. 学年ごとの学習習慣の課題

「ノート・プリントの活用」や「テスト・ワークができるまで繰り返す」といった具体的な学習習慣については、学年ごとに明確な差が見られました。

1学年・3学年：これらの学習習慣が改善・定着傾向にあります。

2学年：これらの具体的な学習への取組が低下しており、学習時間の低迷と併せて、学習方法そのものの見直しと支援が課題となっています。

1学年 82人			2学年 67人			3学年 75人					
家庭学習	よく活用する	時々活用する	全く活用しない	家庭学習	よく活用する	時々活用する	全く活用しない	家庭学習	よく活用する	時々活用する	全く活用しない
ノート・プリントを活用しているか	44.0%	53.6%	2.4%	ノート・プリントを活用しているか	7.4%	83.6%	9.0%	ノート・プリントを活用しているか	17.3%	72.0%	10.7%
家庭学習	できるまで	できるまでしない	全く活用しない	家庭学習	できるまで	できるまでしない	全く活用しない	家庭学習	できるまで	できるまでしない	全く活用しない
テスト・ワークができるまで解き直すか	50.0%	43.1%	6.9%	テスト・ワークができるまで解き直すか	32.8%	52.2%	15.0%	テスト・ワークができるまで解き直すか	42.7%	46.7%	10.7%

4. 長時間のインターネット利用と学習時間の関係

SNS・インターネット・動画をいずれも2時間以上利用する生徒が、1学年28%、2学年42%、3学年37%で、特に2学年で高い割合となっています。これらの生徒は学習時間が平均を下回っており、長時間にわたるインターネット利用が家庭学習に影響を与えていたことが改めて確認されました。

1学年 82人			2学年 67人			3学年 75人					
家庭の時間	SNS	インターネット	動画視聴	家庭の時間	SNS	インターネット	動画視聴	家庭の時間	SNS	インターネット	動画視聴
1時間未満	46.4%	39.0%	24.4%	1時間未満	46.3%	22.4%	17.9%	1時間未満	46.7%	24.0%	21.3%
1時間～2時間未満	25.6%	22.0%	31.7%	1時間～2時間未満	11.9%	53.7%	17.9%	1時間～2時間未満	16.0%	29.3%	28.0%
2時間以上	28.0%	39.0%	43.9%	2時間以上	41.8%	23.9%	64.2%	2時間以上	37.3%	46.7%	50.7%



【総括】

今年度の家庭学習は、全体的に学習時間が増加し、特に受験を控える3学年や1学年で改善が見られ、苦手克服への意識も向上しました。

一方で、課題も明確になっています。

- ① 学習時間について：長時間取り組む生徒が増えている一方で、学習に取り組む時間が少ない生徒も一定数存在しています。
- ② 長時間インターネット利用の影響：SNSや動画の長時間利用が全学年で確認され、学習時間を圧迫している状況が見られます。

学校では、定期テスト・長期休みの計画づくり等に、自身の生活習慣を振り返る機会を作るなどの取組を行っています。他にも、行事や日々の学習の際には、振り返りを大切にするよう声をかけております。その上で、学校では、生徒一人ひとりが主体的に学習に取り組むことのできる環境づくりをより一層強化していきます。また、引き続き「粘り強く挑む力」と「心をつなぐコミュニケーション力」を育んでまいります。そして、保護者の皆様におかれましても、この結果を踏まえ、御家庭でも、お子様との対話を通じて、家庭学習の方法や生活リズムについて温かい声掛けと見守りをお願いいたします。

今後とも、御理解と御協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。